

【2025 年度 中間レポート奨学生の声】

奨学生 A さん

・ この度は奨学生に採用いただき、誠にありがとうございます。奨学金のご支援のおかげで、教職課程の勉強と専攻楽器であるトロンボーンの練習を両立しながら、充実した学校生活を送ることができています。

現在は、トロンボーンが使用される合奏系の授業をすべて履修し、学校を代表するマスターオーケストラをはじめ、吹奏楽やブリティッシュブラスなど、学内外の演奏機会に積極的に参加しています。出演にはオーディションが必要なため、すべての機会に挑戦し、演奏の場を得ることができています。

奨学金のおかげでアルバイトをせずに学業に集中できており、教職課程の授業も無遅刻・無欠席で取り組んでいます。昨年度に比べ、今年は月に一度以上の本番があり、演奏活動もより充実しています。経済的な理由で教職を諦めかけた時期もありましたが、学費や教材費に充てることができ、改めて深く感謝しております。

今後もこの支援に恥じぬよう、学業・演奏ともに精一杯努めてまいります。

奨学生 B さん

・ 現在、卒業論文執筆に向けて知見を深め、視野を広げることに努めています。アニメーション映画の音楽をテーマに検討しており、関連文献や過去の論文を読みながら、独自のアプローチを模索しています。インプットとアウトプットを粘り強く続けながら、論文構成や焦点の絞り方を探っています。

副科のピアノでは、これまで挑戦してこなかった 2 台ピアノに取り組み、ソロ演奏とは異なる難しさや魅力を実感しています。大学で学んだソルフェージュや和声、プライベートで学習している作曲の知識を演奏に活かすことを大切にしています。

楽理科は他専攻に比べて奨学金制度が少なく、学びを経済的理由で制限せざるを得ない状況もありました。文献や CD の購入にも費用がかかる中、貴財団の奨学金を受給できたことは大変ありがたく、心より感謝しております。この支援のおかげで、学業に専念でき、充実した学生生活を送ることができています。今後もこの機会に恥じぬよう、勉学に励んでまいります。

奨学生 C さん

・現在は卒業論文の執筆に向けて、資料収集やゼミ・研究会での発表に取り組んでいます。今学期は音楽研究における「身体性」というテーマに焦点を当て、90 年代以降の重要な著作の検討を進めており、成果は学内の中間報告会で発表予定です。

授業では学部に加え大学院のゼミも聴講し、資料整理や発表を通じて知的好奇心と研究能力を高めています。現在は日本音楽学会の学術誌『音楽学』への書評論文投稿に向けた準備も進めており、研究活動をさらに深めているところです。

今年度は大学院音楽研究科の入試を受験し、音楽史や音楽学の基礎を再確認する機会を得ました。研究計画の立案にあたり、人文学の多様なテクストを読み込んだ経験は、今後の研究の糧となっています。

音楽学は声楽や器楽、作曲といった実技分野に比べて認知度が低く、支援の機会も限られています。その中で貴財団の奨学生として採用いただけたことは、音楽文化の一端を担う分野として認められたように感じ、大きな励みとなりました。論文執筆や資料調査など困難な作業も多いですが、奨学金を支えに、今後も研究に邁進してまいります。

奨学生 D さん

・前期は通常の授業やレッスンに加え、教職課程や 2 台ピアノの授業も履修し、全講義を欠席なく受講、成績も S・A 評価で終えることができました。後期は他専攻の方から伴奏の依頼もいただいております、積極的に挑戦しながら経験を重ね、将来につなげていきたいと考えています。

初めての一人暮らしで学費や生活費に不安がありましたが、貴財団のご支援のおかげで学業に専念できています。朝や空き時間は大学の練習室、夜は自室で練習を重ね、前期の実技試験では納得のいく演奏ができました。

今後は伴奏や大きなコンクールなど、これまで経験のない挑戦が増えていくと思いますが、積極的に取り組み、自分自身と音楽の成長につなげていきたいです。改めて、温かいご支援に心より感謝申し上げます。

奨学生 E さん

・現在は学業優先でアルバイトは週 1 回程度にとどまっていますが、生活費や学費の負担は大きく、貴財団からの給付金には大変助けられております。

専門のピアノ実技では、コンクール中心の生活から一歩離れ、レパートリーの拡充に注力し

ました。新たな作曲家の作品に取り組み、奏法や作風の多様性を学ぶことができました。加えて、パイプオルガンやチェンバロのレッスン、自律神経や筋肉の動きを測定する授業など、専門性を高める講義を受講し、SNSでの発信も続けています。

学外では、地元北海道での演奏活動に加え、「100万人のクラシックライブ」のオーディションに合格し、後期からは愛知でも演奏の機会を得ました。将来の選択肢として教職を視野に入れ、地元の教員採用試験に合格。進路が一つ定まったことで、残りの大学院生活により集中して取り組む意欲が高まっています。

奨学金のご支援のおかげで、学業や演奏活動に集中でき、非常に充実した学生生活を送ることができました。改めて心より感謝申し上げます。